
読んだら死んじゃう本

黒柘榴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

読んだら死んじゃう本

【Nコード】

N8612R

【作者名】

黒柘榴

【あらすじ】

読むと十三日後に死んでしまう本とオレの話

(前書き)

二年前に書いた作品です

主人公の一人称からの心理描写に挑戦してみたっかたのですが、うまくいっているかどうか
オチは弱いです

『その本を読んだものは、十三日後に死ぬ』

さつき友人がおどろおどろしく語っていた、季節はずれの怪談話。呪い？ くだらない。

そんな不確かなものなんぞで人間が簡単に死んでしまうのなら、この国の年間死者数は絶望的なことになってしまっているはずだ。地球温暖化には好影響をあたえそうだけど。

まあもつとも、怪談話なんてものは楽しく盛り上がる材料として存在しているわけで。ぐだぐだ言ってるオレだって、正直なところ、結構好きな方だったりする。バカな仲間と一緒にあって騒ぎもするし、持ちネタだっていくつかはあある。

では、なぜオレは今こんな話をしているのか。
その答えはオレの目の前にある。

「読んだら死んじゃう本」

そんなタイトルがでかかど表紙を飾っている、若干厚めのハードカバー本がオレの机の上にあるのだ。

な？ 笑っちゃうだろ？

先の友人が仕掛けたんじゃないかっていうくらい、無駄に露骨で荒唐無稽。

しかし、友人の悪戯だとしたら少々おかしな点がある。

急ごしらえにしては、異常に古ぼけていて、とてもそんな風には見えない。

では本物なのだろうか。本当に呪いの本なのだろうか。冒頭でも述べたように、呪いの類は存在するはずがないのだ。すなわち、この本が現実問題として「人を死に追いやる本」である確率は限りなくゼロに近いのだ。

「限りなく」といったのは、万が一ということもまきにしもあらずだからな。これくらい許せ。

と、そこまで思考を巡らせていたオレだったが、結果的に

(無視しよう)

という結論に落ち着いたため、再び歩き出すことにした。

しかし、数歩ほど進んだところで、ふととあるひとつの迷いが脳裏を過ぎった。

(このまま帰ってしまったても、後悔しないだろうか？ こんな面白そうな場面、そうそう出くわすもんじゃないぞ)

そしてオレは、つい振り返って引き返し、「読んだら死んじゃう本」をてにとってしまった。

家に帰り、飯を食い風呂に入っている間、なぜだか無性にあの本の中身が気になりだした。

本当は、明日学校で友人たちと一緒にワイワイやりながら開くつもりだったのに。

風呂からあがり、髪もろくに乾かさないうで、オレは例の本を開いた。

そして十三日後、オレは死んだ。

なんて阿呆なことは一切起こらなかった。

代わりに、オレはこの件のくだらないオチに落胆しつつも、声にだして笑ってしまった。

「ははっ、なんだコレ。死ねるわけがないじゃねえか。ってかむしる読めねー」

勘や察しのいい人ならば、恐らくもうお気づきのことだろうと思う。

単刀直入に答えをお教えしよう。

そう。白紙だったのである。

念のために、後ろのページもペラペラと捲ってみたが、どのページも見事に真っ白。

ページ数はおろか、染みひとつない。少しばかり日に焼けて黄ばみがかっているくらい。

オレがとばしたと思っていた目次だつてない。

言ってしまったえば、本型の古いメモ帳である。

誰だ、こんな壮大なドッキリを仕掛けた愛すべき馬鹿野郎は。

オチが単純すぎて、逆に最後まで気付けなかったじゃないか。

ごめん。今のは言い訳でした。

なんだかもう面倒くさくなってしまったオレは、部屋の隅のゴミ箱に「読んだら死んじゃう本」を投げ捨てた。

そして十四日後、オレはまだまだ元気です

(後書き)

感想など頂けるとありがたいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8612r/>

読んだら死んじゃう本

2011年10月8日22時02分発行